

陳 情 文 書 表

<p>受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名</p>	<p>陳情第48号（6. 2. 7） 全ての子供たちへの行き届いた教育を目指し、35人以下学級の推 進、教育費の軽減、教育条件の改善を求める陳情</p>
<p>陳 情 の 要 旨</p>	<p>1. 小学5年生・6年生の35人学級先行実施、中学校の35人学級を早 期に実現すること。当面、中学1年生の35人学級を直ちに実現するこ と。 2. 市立幼稚園の3歳児は20人学級、4・5歳児は30人学級とし、希 望者全員の就園を実現させること。 3. 市立幼稚園の3年保育実施園を早急に広げること。 4. 教育予算を増額し、学校園教育に係る保護者負担を軽減するこ と。 5. 児童・生徒数の過大・過密を解消できるよう特別支援学校を更に 増設すること。また、施設・設備を拡充すること。必要に応じてマン ツーマン指導体制を認めるなど、児童・生徒の実情に見合った教員配 置を実現させること。</p>
<p>陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名</p>	<p>神戸市中央区 ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会 飯塚 直人 ほか1名 その他署名者あり（申告数2439名）</p>
<p>送 付 委 員 会</p>	<p>教育こども委員会</p>

2024年2月7日

神戸市会議長 様

陳情者

住所 神戸市中央区

氏名 ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会
津村 謙二 (電話)

住所 神戸市中央区

代表 氏名 ゆきとどいた教育をすすめる神戸の会
飯塚 直人 (電話)

すべての子どもたちへゆきとどいた 教育をめざし、35人以下学級の推進、 教育費の軽減、教育条件の改善を求める陳情

【陳情趣旨】

政府は「GIGAスクール構想」に基づく教育のICT化のために多額の予算をつけていますが、一人ひとりの子どもが大切にされる、ゆきとどいた教育を実現するために急ぐべきは、教職員定数の抜本的改善です。これは、深刻な教職員の未配置（「教育に穴があく」）問題解決のためにも、教職員の長時間過密労働の解消のためにも、不可欠で喫緊の課題です。

子どもたちは、明日の神戸を担う地域の宝です。少子化の進行や神戸からの人口流出が危惧されている今、豊かな学校教育や子育てしやすい街づくりのための方策は大きな課題です。

特に、学校における少人数学級は、子どもたちの健やかな成長発達のために必要不可欠な教育条件です。神戸における少人数学級（35人学級）は小学4年生までですが、全国ではさまざまな工夫と努力で大きく広がっています。中学1年生の少人数学級に限れば、全国の政令市で実施されていないのは、神戸市を含む3団体のみとなっています。（大阪市、堺市、神戸市）

子どもの家庭における経済格差が教育格差にならないような、保護者負担の軽減も行政の大きな課題です。安心して子育てができるようになれば、神戸の未来も明るいものになるでしょう。私たちは、「教育日本一」をめざす神戸市だからこそ、教育条件の改善をいっそう進められるよう、以下の項目について陳情します。

【陳情事項】

1. 小学5年生・6年生の35人学級先行実施、中学校の35人学級を早期に実現してください。当面、中学1年生の35人学級をただちに実現してください。
2. 市立幼稚園の3歳児は20人学級、4・5歳児は30人学級とし、希望者全員の就園を実現させてください。（現行3歳児は25人、4・5歳児は35人）
3. 市立幼稚園の3年保育実施園を早急に広げてください。
4. 教育予算を増額し、学校園教育にかかる保護者負担を軽減してください。
5. 過大・過密を解消できるよう特別支援学校をさらに増設してください。また、施設・児童・生徒数の設備を拡充してください。必要に応じてマンツーマン指導体制を認めるなど、児童・生徒の実情に見合った教員配置を実現させてください。

以上

署名提出あり: 申告数 2,439筆